

- 「作文」の授業ですが…
- 「作文」ではなく、「文章表現」を行う。

→この授業で何をするか:

言語表現の技術を習得するための演習を行う。

- ただ日本語の作文をすることだけが目的ではないことに注意する。物事や考えを、第三者に明確に伝えるための文章(仕事の文章)を書くための技術を習得することを目標とする。
- 課題を設定し、文章表現の演習を行う。
- 演習で作成した文章を相互批評や添削指導を通じて、言語表現技術の基礎を習得する。

授業に必要なもの

- 授業中に配布するプリントを教科書として代用する。自己責任で保管すること。原則として、再配布はしない。
- 筆記具
- 辞書(紙の辞書が望ましい)

※電子辞書、スマートフォンの辞書機能の使用は、授業中特別に許可する。ただし、中間試験・期末試験では許可されないことをあらかじめよく考えて勉強すること

受講に際して

1. 受講生としての最低限のルールを守る

- 遅刻・欠席をしない。出席評価が足りない学生は、学内・学科内の規則にのっとり期末試験の受験を許可しない。
- 授業を妨害したと講師が判断した場合には、当該受講生の単位取得を認定しない。

2. 言語表現演習・講義中の課題・レポート等の提出物は原則として全て提出する

単に授業に出ればよいというわけではない。この授業では、実際に演習をしたことが証明されなければ、出席したとはみなさない。

3. 返却された提出物は、責任をもって管理・保管すること。

4. プリントに記載されていない内容でも必要があれば積極的にメモをとること。

気づいたことを学習することを積み重ねていくことで、文章表現技術はより向上する

5. 「一言カード」を活用する。毎回講義終了前に記入して提出すること。

- ✓ 教員側の立場からは、受講生諸君の理解度を把握し、次回の授業時に補足が必要なことを把握できるという利点がある。
- ✓ 受講生諸君の立場からは、短時間で考えをまとめる練習の機会になる。また、講師への質問などを気軽に伝えることができる。

初回授業課題：

(A) 2017 年の夏休みに、あなたが経験した、または学んだことについて説明してください。ただし、次の条件を守ってください。

(a) 300 字以内で書く。

(b) 「思う」、またはその変化形(例:「思い」、「思っ」…)を使用しない。

(c) 「です」「ます」を使用しない。

(B) 「一言カード」に、本授業を履修するにあたって講師に質問したい内容を書きなさい。

本授業の資料作成における参照文献・利用文献

林治郎・岡田三津子(編著) (2015) 『新版 言語表現技術ハンドブック』. 大阪:晃洋書房.

石黒圭・筒井千絵 (2009) 『留学生のためのここが大切 文章表現のルール』. 東京:スリーエー
ネットワーク.

清水明美 (他編) (2011) 『Practical 日本語 文章表現編—成功する型—』 (改訂版). 東京:
おうふう.